

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
1	小石川医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	往診を支援する事業者と契約し、本事業への参画を希望した医療機関の夜間休日の往診を代行した。ファーストコールはかかりつけ医・主治医が対応。	○	
2	浅草医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	待機医制を敷き、主治医の代診体制を構築。あくまで主治医を中心に、主治医が対応できない時のみ待機医が代診する流れとした。金曜日18時～月曜日9時まで、祝前日18時～祝翌日9時までの時間帯に待機医制を導入した。 MCSチーム機能を導入した。		○
	浅草医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	主治医及び待機医が各々在宅医療において必要な医療機器を適時適切に活用できるよう医療DXを購入した。台東区における在宅医療の質の向上と在宅医の診療支援の発展を目指し、医療機器の購入を行った。浅草・下谷両医師会に設置し、①在宅医が診療に活用する、②在宅医が医療DX技術を用いて専門医に相談することを目標とし、今年度はポータブルエコーとポータブル眼圧計・眼底カメラ・スリットランプを購入した。		
3	墨田区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携 ②かかりつけ医連携	MCSチーム機能を導入し、運用を開始した。多職種の関係者間での円滑な情報共有の実現が見込まれるMCSチーム機能の運用開始と、往診業者との連携により医師の負担を軽減し患者への手厚い医療を提供出来るよう24時間診療体制を構築していく。		○
	墨田区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	24時間診療体制構築に資するシステム及び24時間対応運用フローを検討し、訪問看護師への説明を行うとともに運用に向けての意見交換等を行った。		○
4	江東区医師会	24時間診療体制推進事業	①かかりつけ医連携 ②往診支援事業者連携	・主治医が在宅患者の往診要請に対応できないと想定される場合に、その期間に対応可能な副主治医を選出し、副主治医が往診代行を行う主治医一副主治医体制を構築した。 ・在宅医療未経験医師が在宅医療へ参入することを促進するための取り組みとして、在宅医療未経験医師(スキルアップ医)と経験のある在宅医(ベテラン医)によるチーム体制の構築を行うとともに、更なる主治医一副主治医体制の拡充を図った。 ・在宅医療に必要な連携を担う拠点として江東区医師会内に江東区在宅医療連携センター（スタッフ1名）を設置し、主治医一副主治医調整のサポート、退院支援/在宅受入支援を行なった。 ・往診を支援する事業者(オンコール)とも連携を行い、主治医一副主治医体制でカバーしきれない夜間、休日の往診を、オンコールに依頼できる体制を構築した。	○	
	江東区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察 ②オンライン診療/健康相談 ③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	・タブレットとバイタルセンシング機器を患者に貸与し、24時間オンライン診療が可能な診療体制を構築した。 ・電話自動応答システム(Iver)、WEB問診/オンライン診療(Symview)の導入。 ・在宅医がもっと簡単に各科専門医にコンサルトできるようにするために、MCSに専門医コンサルトのためのグループを立ち上げた。		○

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
5	荒川区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	・連携を図るためのシステム導入検討のため、本会会員並びに区内訪問看護ステーションを対象にアンケート調査を行った。 ・24時間診療体制に参加する医師に必要なツールとして、在宅医療の資格確認の端末、ポータブルエコー等のインフラ整備を行った。		
	荒川区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	・24時間診療体制構築をスムーズに行うため、サポートするメンバーで一括で招待や解除を可能にするMCSチーム機能を導入した。 ・患者情報を一元管理するためのデータ管理等にパソコンを整備し、訪問診療機関や訪問看護ステーション等、地域の連携する多職種に必要な情報提供体制について検討を行った。 ・デジタル技術を活用し関係機関との連携を推進するため、iPadを整備し、活用方法の検討を行った。		○
6	足立区医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	患者主治医の不在時に備え、在宅休日当番医が24時間対応するための体制を構築した。訪問看護との連携体制を整備しICTを活用した情報共有を行った。事前予約制を基本とし、患者主治医不在時の往診対応の枠組みをモデル事業として運用を開始した。		○
7	葛飾区医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	既存の窓口「かつシカ連携相談室」を活用するとともに、新たに「葛飾区医師会在宅医療等夜間連携窓口」を設置。MCSを用いて患者を事前登録し、患者から夜間に電話連絡やMCS連絡があった場合は事業本部の当番看護師薬剤師等が取り次ぎ、軽微な案件についてはその場で対応、難しい場合は登録されたかかりつけ医や必要な医療機関と情報共有し、対応した。		
8	江戸川区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携 ②かかりつけ医連携 ④地域の連携による24時間診療体制構築	既存の在宅療養相談窓口を拡充し、看護師が24時間患者からの電話連絡を受けられるような体制の構築を予定。受電後は夜間・休日は外部事業者に委託、平日日中は会員が対応できる体制を構築できるように関係各所と連携し協議した。		
	江戸川区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	MCSチーム機能を導入した。		○
9	新宿区医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携 ④地域の連携による24時間診療体制構築	テレケア医療機関（かかりつけ医）と夜間休日対応可能な見守りサポート医療機関（在宅療養支援診療所）および患者を繋ぐツールとしてタブレットを用いて、相互連絡（テレビ通話を含む）、診療（オンライン診療を含む）を可能とする体制構築を目指す。独居で通信機器を持っていない方や、その扱いが難しい方、定期的な連絡や安否確認を要する方を対象とし、タブレット貸出による見守りを行う。 今年度は訪問診療を行わない一般の医療機関を中心にタブレットを配布し試行した。		
	新宿区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	24時間の在宅療養患者の見守り体制を整えるにあたり、タブレットを活用。患者宅に設置するタブレットは操作が簡便であり、見やすい画面、本人操作を必要としない通信を可能とする仕様で、患者に負担のないものとなっている。 状況確認や患者側からの発熱などの急な様態変化に顔を見て確認できるアプリ「FaceTime」を取り入れた。操作等については24時間デジタルサポート機関を設置し、フォロー可能としている。		

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
10	目黒区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	平日については、目黒区医師会員の輪番制による往診支援体制の構築し、土日祝については、往診専門の外部事業者の活用した。	○	○
	目黒区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	往診で収集した医療データを集計・分析するとともに、往診時に必要な医療機器の選定・購入や電子カルテとレセコンの選定・購入を行った。MCSチーム機能及び自動転送サービス（Ivry）を導入し、かかりつけ医と当番医との情報のやり取りを補完する体制を構築した。		○
11	世田谷区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	ファストドクター株式会社と連携して事業を進め、平日夜間および土・日・休日全日の往診体制を構築した。MCSのチーム機能を導入した。	○	○
	世田谷区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察	継続的な健康観察及び迅速な病状変化を察知できるようにするため、バイタルセンシング機器（セコム医療サービスvitalook）の説明会を実施するとともに、希望した会員医療機関にバイタルセンシング機器を貸与した。		○
12	渋谷区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	会員医療機関に対して待機及び緊急往診対応に関するアンケートを実施するとともに、往診支援事業者を選定した。	○	
13	杉並区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	患者からのオンコールは各々の医療機関で対応し、往診が必要な場合に関しては担当の医療機関へ連絡をし対応を依頼した。依頼を受けた医療機関は決められた方法で患者情報を共有し往診に出向き対応した。往診後、主治医に状況を報告して対応を終了した。	○	
	杉並区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察	継続的な健康観察及び迅速な病状変化を察知できるように、健康観察に使用するウェアラブル医療機器を整備し、ウェアラブル医療機器による健康観察を試行した。		
14	荏原医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携 ②かかりつけ医連携	・地域内の医療機関に往診支援事業者との連携を促進した。 ・支援する事業者の選定にあたっては設置した相談窓口にて仲介した。 ・会員医療機関からの在宅医療への移行相談を相談窓口にて調整できる体制を整えた。 ・在宅医療への参入推進の支援のためホワイトベースと在宅医療事務支援業務委託契約を締結した。 ・在宅療養に必要な連携を担う拠点を医師会が担っていくために、地域の医療・介護資源がマッピングされた「品川区の身近なお医者さん」をもとに関係機関への地域の医療資源について周知を進めた。 ・「専門コンサルテーション」活動による困難症例に対する地域の多職種ををあげたサポート体制を構築した。	○	
	荏原医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察	検査情報を在宅にて取得できるポータブルエコーを導入し、データによる診断補助機能の向上を検証するとともに、在宅医療におけるエコーの活用についてハンズオン研修を実施した。MCSチーム機能を導入した。		○

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
15	豊島区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	夜間緊急時対応を行う往診を支援する事業者と連携した24時間診療体制の確保に向けて、以下の取組を行った。 ・依頼医師が窓口につながり、往診等を希望する患者を登録 ・休日診療所に設置したクラウド型電子カルテに患者情報を記載し、情報が確認できる体制構築 ・夜間等の緊急時にはファーストコールを豊島区看護師会で作成したリストに基づき受電 ・看護師の聴取内容に応じて、担当医師が電話/オンライン診療もしくは往診を実施し、診療内容に応じて算定		
	豊島区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察	・クラウド型電子カルテを利用し、患者情報の共有、診療記録の作成、算定を実施算定。WebORCAを利用してクラウド型電子カルテと接続。 ・Web問診システムを利用して、患者情報取得を容易化。 ・自動電話対応システムによる当番看護師/医師の割り振りの容易化。 ・医療介護専用SNSの利用による情報提供で多職種連携の円滑化。		○
16	板橋区医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携 ④地域の連携による24時間診療体制構築	かかりつけ連携医制度と医師会病院在宅連携部を発足、かかりつけ医（主治医）・連携医・医師会在宅連携部（コーディネート医）の3層構造の診療体制を確立した。各患者の個人情報は、同意を頂き、カナミックシステム（ICT）を用いて、情報共有可能な体制を構築した。これにより、かかりつけ医（主治医）に連絡が取れない場合は、連携医への連絡、更に連絡・連携不能な場合、医師会病院在宅連携部へ連絡するように提示、電話相談、コーディネート医による往診対応及び、医師会病院での入院受け入れ体制を確立した。訪問診療医マッチング体制を構築、医師会病院在宅連携部において、かかりつけ医からの依頼に対し、訪問診療医の紹介等の相談業務も開始した。また、MCSチーム機能も導入した。		○
	板橋区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察 ③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	・在宅モニタリングシステム：ベッドマット下に設置するモニタリングにより、呼吸数・心拍数・睡眠状態などを計測し、診療に活用する。また、生活リズムを可視化することで、効率的な介護サービス導入へつなげる。終末期には、強制呼び出し機能を備えたビデオ通話システムを併用し、安全かつ安心な在宅看取り体制を確立する。 ・かかりつけ医と訪問連携による夜間休日医療提供システム：夜間休日の医療を主治医と訪問看護師が連携して担う仕組みとして「夜間医療相談センター」を設置した。患者からの情報を即時に主治医へ共有し、主治医の判断により看護師が緊急訪問できる体制を整備する。訪問看護師は心電計、感染症抗原検査キットなどを含む往診セットを携行し、現場でのオンライン診療（D-to-P with N）を支援する。		○
17	練馬区医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携 ②かかりつけ医連携	夜間休日診療サポートとして、他院患者の緊急往診（代診）を受け入れる余力がある医療機関に協力金を支払い対応してもらうことで、現有の医療資源を最大限利用できるようなシステムを構築。 他科連携推進として、他科に連携時間の確保及び受入れ協力金を支払うとともに、他科連携に資する必要機器を整備。	○	
	練馬区医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	MCSのチーム機能を導入した。		○

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
18	西多摩医師会	24時間診療体制推進事業	④地域の連携による24時間診療体制構築	訪問看護ステーションと連携し、24時間の在宅療養見守り体制を構築した。夜間・休日の待機医師グループを当番制で構築した。訪問看護を導入されているが、夜間・休日に連絡のつかないかかりつけ医の代わりに、待機医師が訪問看護からの相談を受け、地域全体のかかりつけ医機能を強化する体制を構築した。		
	西多摩医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	MCSを導入。訪問看護の相談業務は、訪問中にタイムリーに受ける必要があり、現在の医師数ではMCSの応答にタイムラグが発生してしまうため稼働を保留している。		○
19	国立市医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	医師1人体制の5医療機関が参加して、うち在宅支援診療所2ヶ所を含む4医療機関で週替わりで当番制を組み、在宅患者の急変や看取り時の支援体制を作った。		
	国立市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	MCSのチーム機能を導入した。		○
20	狛江市医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携 ②かかりつけ医連携	・従来運用していた在宅療養支援診療所の連携グループを発展させ、狛江市医師会に在宅連携拠点として在宅医療連絡会を設置。さらに隣接市にある多摩川病院との機能強化型連携構築をすすめ、入院応需体制の強化も実現した。 ・在宅療養支援診療所の24時間診療体制を支援するため、外部支援事業者との連携で緊急往診等の人材を安定的に確保し、実際に時間外往診に活用された。 ・在宅療養支援診療所以外のかかりつけ医が在宅医療を実施する場合には訪問看護ステーションとの連携を前提に、上記連絡会や時間外往診を支援する外部機関も活用し24時間体制を支援することで、地域医療者の持続可能な診療体制を構築した。 ・24時間診療体制構築のためのMCSチーム機能の導入	○	○
	狛江市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	・24時間診療体制構築のための夜間休日の往診依頼やトリアージのための自動応答システムIver及びWEB問診/オンライン診療システムの導入と運用設計、カスタマイズの実施 ・在宅患者の情報共有に上記システムやMCSを活用し、患者からのコールを転送システムで往診担当医療機関や訪問看護ステーションにつなぐことや、かかりつけ医からの患者基本情報の登録や在宅医による往診時間、診療結果報告などをリモート環境でもリアルタイムに実施できるようシステム構築した。		○

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
21	調布市医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携 ②かかりつけ医連携	・医師会が在宅医療・介護連携促進を目的として運営・推進してきた「ちょうふ在宅ネット（MCS）」を活用し、自由グループ"E-ZNET CHOFU TOKYO"（以下:E-ZNET）を連携拠点として運営。代診のマッチングや情報共有を行える場を提供した。 ・上記を補完する簡易連絡ツールとしてLINEWORKSを利用し、よりタイムリーに情報共有が出来る環境を提供した。	○	
	調布市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	②オンライン診療／健康相談	・「ちょうふ在宅ネット」への登録をE-ZNETへの参加条件とすることでセキュリティの担保に繋げると共に、MCSの普及促進やスムーズな患者情報の共有・多職種連携を可能とした。 ・専門科医療機関に対する往診のアクセス性が向上し市民や在宅医の不安軽減を図った。 ・訪問看護ステーションが往診に同行可能とすることで在宅医療の質の担保及び患者の不安軽減を図った。 ・歯科医師会と連携し、摂食嚥下障害患者の往診対応を可能とし、患者の身体的負担の軽減やQOL向上を図った。 ・「ちょうふ在宅医療相談室」において、困難ケースの相談を受けた場合などに担当理事を通して地域の医療機関へ相談・発信する場としてE-ZNETを利用し、地域の課題解決や在宅診療医紹介を可能とした。		
22	三鷹市医師会	24時間診療体制推進事業	④地域の連携による24時間診療体制構築	地域の連携による24時間診療体制構築に資する取組として協力医療機関を募集し、診療体制（日中と夜間・休日のの二分対応）及び電話転送サービスの活用について検討した。 MCSチーム機能を導入した。		○
	三鷹市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	デジタル技術を活用した継続的な健康観察により、迅速に病状変化を察知する取組として、WEB問診システムSymviewを活用し、患者情報登録(ACP情報やキーパーソン情報等緊急時対応に必要な患者情報)及び経過観察情報の収集について検討した。		○
23	町田市医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携 ②かかりつけ医連携	往診を支援する事業者と契約し、夜間休日の往診を代行するシステムを構築。ファーストコールはかかりつけ医療機関とした。	○	
24	西東京市医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	在宅医療を行う医療機関で輪番体制を構築し、足りない部分は専門事業者の力を借りた。あらかじめweb問診システム（Symview）で患者情報を登録し、患者からの電話を担当訪問看護が受け、必要であれば輪番医へ連絡。その際に電話転送システム（IVER）を使用。輪番医は往診の必要があれば往診。輪番担当の連携医とは患者の特有の状態を患者情報管理システムで共有し、WEB問診についても患者にあらかじめかかりつけ医より説明した。日中は、西東京市在宅療養連携支援センター「にしのわ」が在宅専門医への連携を進めた。	○	
	西東京市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	事業者が提供するコンテンツを利用。WEB問診システムと患者情報管理システムは連携。 ・電話自動応答・自動転送 ・WEB問診システム ・患者情報管理システム		○

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
25	東久留米市医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	市内の開業医が担当している在宅患者の容態が悪化した際、診療時間外や休診日などに迅速な対応が困難な場合に備え、東久留米市医師会の主導のもと、往診対応可能な医師が待機する体制を構築。患者情報の共有には、クラウド型の在宅医療用電子カルテ（M3デジタル）を活用し、患者ごとの情報や個人情報の適切な管理を行っている。MCSの多職種利用とあわせて、多職種間の情報共有と連絡調整を円滑に実施できる体制を整えた。		
	東久留米市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察	・食事内容を画像保存し、AIを活用したアプリ「カロママ プラス」を用いて内容分析し、接種カロリー量測定及び栄養分析を実施 ・血圧、脈拍、ストレス度などの身体機能チェックが可能なスマートウォッチを用いて在宅患者の身体状況データを収集し、栄養と身体機能の変化を比較 ・持続血糖測定器（フリースタイルリブレ2）などを用いた血糖自動連続記録により栄養摂取と血糖値の変化の関係を測定 上記データや訪問診療医の血液検査データなどを用いて、管理栄養士が在宅栄養指導を行い、かかりつけ医と共に栄養状態の改善に取り組んだ。		
26	稲城市医師会	24時間診療体制推進事業	④地域の連携による24時間診療体制構築	訪問看護ステーション、包括支援センターや診療所など福祉施設や医療機関において、救急車に至らない程度の急病者があった場合、転送電話によって基幹施設（医師会など）に連絡が入り、対応医療機関に繋げて往診を行った。		
27	八王子市医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	従来の24時間診療体制を市内病院とともに再構築。在宅当直医の負担軽減や、入退院をきっかけに安易にかかりつけ医から訪問専門医に切り替わらないような仕組みづくりを構築した。 多職種連携システム「まごころネット八王子」内に、市内2次救急病院の空所情報が確認できる「まごころベッド」機能を追加し、在宅当直医やかかりつけ医の負担となっていた救急搬送調整をサポートした。さらに、療養型病院にも「まごころベッド」への参加を促し、急性期治療後の「下り搬送」や在宅療養が困難となった際の入院調整にも活用できるよう機能を拡充した。		
	八王子市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察	患者宅に見守りデバイスを設置。異常値が発生した場合はモニタリングセンターでアラートを受け取り、モニタリングセンターから訪問看護ステーションに連絡。訪問看護師が容態確認、かかりつけ医への連絡等を行い緊急対応につなげた。		
28	日野市医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	「日野市医師会往診ステーション」を立ち上げて急病患者の対応を行うことで、平日及び夜間帯、休日祝日は昼夜問わず、急な疾病に対応できる体制を確立した。		
	日野市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	かかりつけ医、サポート医療機関等での診療情報や患者サマリーを簡便に作成できるスマートフォン用のアプリ開発を行った。		○

	地区医師会名	事業種別	事業区分（実施要綱）	令和6年度事業内容	往診を支援する事業者との連携	WEBシステムの構築等
29	立川市医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携	・在宅医療に取り組む立川市内のかかりつけ医療機関が特定の期間24時間対応ができない場合、事前に決めておいた当番クリニックに24時間対応（必要に応じて往診）を依頼しLAVITAを使用し患者の情報を共有するシステムやルールを検討 ・現在在宅医療に積極的に取り組んでいないものの、今後在宅医療を検討している医療機関へ向けて参入に向けた聞き取り調査を実施		
	立川市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	①継続的な健康観察	24時間診療体制構築のためのMCSチーム機能を導入。 継続的な健康観察のため、患者宅に見守りカメラまたはそれに代わるデジタル機器の導入を検討。		○
30	小金井市医師会	24時間診療体制推進事業	①往診支援事業者連携	協力事業者に対象となる在宅療養患者の情報を詳しく伝え、clinic portalに患者リストを構築。参加医療機関ごとに夜間休日におけるファーストコールの対応者（自院又は協力事業者）を決め、電話転送及びWEB問診システムを活用し、翌日以降に主治医が確認する対応とすることにより、24時間診療体制を構築した。	○	
	小金井市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	②オンライン診療／健康相談	・患者、医師、ナース、ファストドクター間の連絡を迅速かつ確実に行うため、電話転送システムIverを導入 ・患者情報登録を迅速かつ確実に行い共有するため、WEB問診システムSymviewを導入 ・地域の在宅診療所間で自前の24時間診療体制の構築や、眼科、耳鼻科、皮膚科などの専門医グループによる在宅医療の困りごと対応のため、MCSチーム機能を導入		○
31	小平市医師会	24時間診療体制推進事業	④地域の連携による24時間診療体制構築	立川市医師会の取組に参加し24時間のオンコール体制を構築するため、小平市医師会にも24時間診療体制推進のための協議会を設置し、連携の方法など、具体的な実施体制について検討した。		
	小平市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	多職種連携を含めた24時間診療体制構築のためMCSチーム機能を導入		○
32	国分寺市医師会	24時間診療体制推進事業	②かかりつけ医連携 ③多職種連絡調整窓口	在宅医療連携相談窓口を設置し国分寺市医師会会員の5医療機関および市内の3訪問看護ステーションの当番制による体制を構築した。かかりつけの往診医師、看護師と連絡が取れないときに在宅医療連携相談窓口で相談を受け、患者や家族からの相談主訴や既往症をシートに則って聞き取り、当番医師や訪問看護ステーションへの振り分けを行う。窓口から連絡を受けた当番医または看護師が患者宅へ赴き必要な治療や処置御行うか、またはオンラインにて診療を行う。		
	国分寺市医師会	デジタル技術を活用した医療DX推進事業	③デジタル技術を活用した24時間診療体制構築	本事業に参加している当番医と訪問看護ステーションにタブレットを貸与し、患者対応や相談窓口との連絡や情報共有、オンライン診療に活用できるよう環境を整備した。		